

## 第5回

# 近代国家への道のり

監修・講師 佐伯英志

### 学習のねらい

日本が憲法を制定した背景には、どのような世界の状況があったのだろうか。私たちに身近なものを題材にして問いを立て、アジア・ヨーロッパ・日本の関係とそれぞれの変化から、19世紀の国際関係と立憲制の広まりについて多面的・多角的に考察し、表現する学習を通じて、日本が大日本帝国憲法を制定した経緯と背景、および「近代化」について学ぶ。

keyword

#### ●アジアの諸国家とその変容

植民地／インド大反乱／西洋式／大政奉還

#### ●明治維新と東アジアの国際関係

明治維新／主権国家／冊封・朝貢関係

#### ●立憲制の広まり

ビスマルク／ドイツ帝国／立憲制／伊藤博文／大日本帝国憲法

## アジアの諸国家とその変容

19世紀のアジア諸国は、欧米進出の影響などを受け、さまざまな対応を迫られることになった。西アジアのオスマン帝国は、民族運動によりギリシアの独立を認めたり、ムハンマド・アリー率いるエジプトに事実上の自立を認めたりしただけでなく、戦争による財政悪化もあり、衰退していった。南アジアのインドでは、植民地化を進めたイギリス東インド会社が、シパーヒーの反乱（インド大反乱）をきっかけにイギリス本国により解散させられ、本国による直接統治のインド帝国が成立した。東南アジアでは、ラタナコーシン朝のシャムがチャクリ改革とよばれる近代化政策を進めた。東アジアでは、イギリス・フランスの影響力が強まってきた清で、西洋式の工場の建設や西洋式の軍隊の整備などが進められた。日本では、開国後に尊王攘夷運動が高まり、幕府への反発が強まると、15代将軍徳川慶喜が大政奉還を行い、天皇に政権返上を申し出た。

## 明治維新と東アジアの国際関係

日本では、薩摩藩を中心とした勢力により王政復古の号令が発せられ、新しい政府が樹立された。新政府は、戊辰戦争の勝利によって支配権を確立すると、さまざまな改革を行った（明治維新）。まず、戸籍法によって身分制度を解体し、廃藩置県によって権力を集中させた。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

武士身分が消滅すると徴兵制度を導入し、元武士の家禄を廃止する秩禄処分<sup>ちつろく</sup>を断行した。また、主権国家体制への参入を目指し、岩倉使節団を欧米に派遣した。東アジア諸国との関係においては、清と日清修好条規、朝鮮と日朝修好条規を結ぶなど、国家間の関係を明確にするとともに、琉球処分を行って沖縄県が日本の一部であることを表明するなど、国境の画定を行った。その後、ベトナムがフランス領インドシナの一部となったため、清は伝統的な華夷秩序に基づく冊封・朝貢関係について、朝鮮との関係は保持したものの、琉球・ベトナムとの関係は失うことになった。

## 立憲制の広まり

19世紀には、ヨーロッパの多くの国で立憲制が定着するなど、国家の枠組みが定まった。プロイセンでは、君主権が強い型の憲法が制定され、その後ビスマルクによって、軍事力と経済成長を背景にドイツ帝国が成立した。イタリアでは、サルディニア王国の主導により、イタリア統一が実現した。フランスでは共和制が定着し、イギリスでは二大政党制が発展するなど、両国でも立憲制の定着が進んだ。アジアでも、オスマン帝国でミドハト・パシャのもとで憲法が発布された。日本では、欧米モデルの近代化をはかる制度改革の一環として憲法制定がめざされ、君主権の強いプロイセン型の憲法を採用することが政府の方針となった。伊藤博文が渡欧してドイツやオーストリアで憲法の調査を行い、帰国後の1889年2月11日、天皇が定める欽定憲法として、大日本帝国憲法が発布された。各国の憲法は、共通性をもちつつ、それぞれの成り立ちを反映して、異なる特徴をもっていた。

### “探究”してみよう！

- 日本の幕末から明治中期にかけての諸改革のなかで、「近代化」の観点から最も大きな意味をもつ政策はどれだろうか。根拠をあげて、自分の意見を述べてみよう。
- なぜ立憲制が近代国家であることの条件の一つとされたのだろうか。憲法とはどのようなものなのかを調べ、考えてみよう。
- 近代国家への道のりについて学び、現代につながっていると感ずることはないだろうか。現代的な諸課題と「近代化」の歴史を結びつけて考えてみよう。